

十神山



# 会報 安来節

YASU GI BUSHI

発行所 安来節保存会

〒692-0064  
島根県安来市古川町534  
TEL 0854-28-9988  
FAX 0854-28-9393  
http://www.y-hozon.com/  
E-mail:admin@y-hozon.com

## 免状授与式



令和3年1月15日安来市役所において、田中武夫会長より唄新名人出雲俊之助さんへの免状授与式を執り行いました。

例年1月10日の「唄い初め会」で行われますが、新型コロナウイルス感染拡大を受け、中止となりましたので、このような形で免状授与といたしました。

## 田中武夫新会長 就任ごあいさつ



会長就任にあたり、ごあいさつを申し上げます。

郷土の民謡安来節は、全国有数の民謡であり、安来市にとっても大切な無形民俗文化財であります。保存会員の皆様におかれましては、「正調安来節」を傳承すべく、普及振興など大変なご努力をいただき、改めてお礼申し上げます。

今後、会長として、また安来市長として安来節をトップセールスし、安来節の振興をしてみたいと思います。どうか、会員の皆様も安来節を通じ、豊かな人生を歩んでいただきますようお願いいたします。



感情豊かに唄い上げる出雲俊之助氏（中央）  
絃准名人 渡部弘充氏、鼓准名人 佐藤孝昭氏

## 新役員紹介



副会長  
葉田茂美  
(安来市市議会議長)  
任期：令和2年11月9日  
～令和3年9月30日



副会長  
伊藤 徹  
(安来市副市長)  
任期：令和3年1月28日  
～令和3年9月30日



会長  
田中武夫  
(安来市長)  
任期：令和2年11月9日  
～令和3年9月30日

## 新名人に聞く

### 「うた」に出合えて



唄 名人  
出雲俊之助  
(加茂支部長)

この度、安来節保存会のご推挙を賜り、唄の部名人位を拝受させて頂きました。今や、世界中コロナ禍の中、安来節保存会会長の特別のご配慮により名人位授与式並びに唄の披露の場を設けてくださり、身に余る事と心より感謝致しまして御礼を申し上げます。

今思いますが私の傍らには、いつも唄声がありました。幼い頃には、父や姉達の仕事の合間に聞く唄声や手拍子、学生の頃には大勢で声を張り上げ、唄を楽しみ、励まし合いました。青年団では、コーラス部に加わり、合唱の楽しみを味わうと共に、それぞれの人生論を語り合い、唄う事で心ひとつにし、活動していた事を思い出します。

その後、安来節との出会いがあり、昭和四十六年に安来節保存会安来支部に入会致しました。そこで私の唄が大きく変わる故小川幸雄先生に出会いました。週一回三年間、唄の練習に加茂から出雲へ通い、楽しかったです。そこには、故石飛孝先生とか故原功先生といった方々がおられ文句入りの唄等いろんな唄を勉強させて頂きました。三年が過ぎた頃、私が師範取得後加茂支部立ち上げの話がもち上がり、それと同時に故二代目出雲愛之助師匠から小川先生に電話があり、小川先生の勧めで二代目出雲愛之助師匠の門弟となり、俊之助として唄の道を行く事になりました。そして、加茂支部の結成、発足。特に加茂支部発足当時の部員一人一人の意気込みは、今でも忘れられません。

地域の練習会を行いました。特に仁多教室には、八年間通いました。今思いますが、本当に遠い三成横田から加茂まで夜の練習にお出掛け頂いたと頭が下がりました。この頃の加茂支部の会員数は、一四〇名位だったと思います。そして、仁多支部が結成された時は、嬉しさも格別でした。また、一方では、活動する上で諸先生方、会員の皆様、また県内は元より県外の民謡を愛し、技術の研鑽を積まれた多くの方々との出会いは、私の半世紀の中でのかけがえのない宝物でした。

～親の背中であえた唄も

恩師の導きあればこそ

授かりました名人位

道ある限りに

唄いますぞえ安来節

唄いました通り、到達点はまだまだ遠い道の先にあると思います。今後、唄い続ける中で島根県と言えは「安来節」と全国の皆様から言って頂ける様に頑張ります。若い方達の張りのある力強い唄声、味のある先輩諸氏の技術、ユニークな子供達のどじょうすくい等々、大いに門戸を開き、安来節保存会の益々の発展を願いつつ、ご指導を仰ぎました故二代目出雲愛之助師匠、故小川幸雄先生をはじめ後援会の皆様の御恩に報いるためにも精進を重ねて参る所存であります。

### プロフィール

◆年 齢 七十六歳

◆入会年月日 昭和四十六年入会

### ◆活動記録

現在 座長として国内公演活動  
安来節演芸館出演

その他 平成十三年  
アメリカ・ニューヨーク

「カーネギーホール公演」出演

平成十四年  
京都南座にて特別出演

この他、国内・国外公演多数出演

### コロナ明けの活躍を願って



資格審査長  
渡部 孝夫  
(本部道場)

新型コロナウイルスまん延防止のために、安来節保存会の事業延期など活動を自粛してからちょうど一年になります。時あたかも今年には保存会創設一〇〇周年ですが、この歴史の中で初めての異常事態です。

会員の皆様に長期にわたり忍耐を強いております。その心情に心からお見舞いを申し上げます。

少し明るいニュースに心を癒しています。フクチン接種も近いようですので、皆様の活動が出来る日もそう遠くないようですから、もうしばらく辛抱をお願いします。

本年の審査もビデオというかつて経験のない方法で実施しておりますが、これも何かと困惑があると思います。なにとぞご協力いただけますようお願いいたします。

長きにわたる保存会の歴史は、決して平たんなものではなく、精魂傾けて芸能活動をつづけた先人の功績は心から感謝しなければなりません。

現在は、保存会に集まっている皆さんの熱意に支えられて、安来節の伝統が守られています。惜しいない応援を心から送りたいと思います。

安来節は簡単な芸ではないことは十分承知されていますが、生活をかけた芸こそでない芸は大きな違いがあります。基礎の稽古はプロもアマも違いはありませんが、舞台上上がったとき表現と迫力に大きな違いがあります。それに少しでも近づくため、芸の工夫を考えてみます。

技量の向上に効果があるのは、演芸の公演、巡業公演などですが、この機会は格段に減少しています。から、現場でたたきあげる芸は望めないかもしれませんが、資料の研究で自分の芸を高めるための課題は作れます。

私は貴重な体験をしたのでそれを紹介します。平成三十年保存会が保有している大正五年から昭和四十七年までのSPレコード百十曲の安来節をCDディスクに編集したことです。収録された芸はこれぞ民謡の王者と言わしめるものです。

この編集で判明したことは、  
◆ 歌詞表現の違い、話し言葉に近くわかりやすい。  
◆ 唄はメロディより歌詞に力があり、歌詞が流れていない。  
◆ 時には歌詞が強調され、意味がよくわかる言葉となつて、必ずしもメロディ通りに唄っていない。

◆ マイクのない時代、思い切った声を出しメリハリがある。  
◆ 発声は地声で高い声が少ない。  
◆ 歌詞の意味がわかりやすい。

現在唄われている安来節とこのようなところに違いがあるように感じました。三味線と鼓についても自己主張など迫力を強く感じるもので、今の安来節との違いに衝撃を受けました。これらをまとめると、

- ・ 表現豊かに元気な芸。
- ・ 楽しい雰囲気をつくる。

このような安来節を表現するために大切なことは、基礎の訓練を十分にすることです。会報安来節第60号の基礎テキストは、大変参考になりますのでこれを活用してください。

どうか皆様が課題を克服され、素晴らしい安来節を演じていただきますよう、そして、コロナ明けは、元気な皆さんとお会いすることを楽しみにしております。



# 私と安来節

## 私の銭太鼓の思い出



銭太鼓准名人  
濱 崎 正人  
(静岡支部)

この度、銭太鼓准名人の身に余るご推挙を頂き、その責任の重さを感じると共に身の引き締まる思いでございます。

今年の新年「唄い初め会」がコロナ禍で中止となり、残念ながら披露出演は出来ませんでした。そんな状況下でも何とかモチベーションを保って行かなければと心を引き締めている昨今です。

振り返ってみますと私が安来節保存会に入会したのは昭和四十九年、その頃は、民謡ブームの真っ只中で安来節は全国津々浦々で繰り広げられ、また地元では、ホテル、旅館等でお座敷演芸が毎日のように行われていたように思います。銭太鼓は、唄や踊りと共に演芸の中では必ずある演目でしたが、その当時の早打ちの打ち手は少なく、人材を育てる事が大変だったように思います。それは、その当時、保存会の正式種目として銭太鼓が無かった事が大きな要因だったと今から言える事だと思えます。ですが、私の場合、必要に迫られ二週間で覚え、すぐに舞台上で打った事を覚えておりますが、やはりポトンポトン落とし、恥をかきながら舞台を通して育った事を今でも苦い思い出として残っております。

銭太鼓に対する熱意と取り組み意識がだんだんと芽生えて来た時でした。そして平成十年には、独自の手順を振付創作し、小規模ながら全国的な組織を設立し、独自の活動を通して銭太鼓の指導、技術向上の研究を重ねて参りました。安来節保存会からは、平成十二年に博多座公演、平成十三年には全国民謡サミット安来大会等、また海外公演でもニューヨーク、中国、韓国、ドイツ、ベルギーと数多くの公演を経験し、熱い思いで頑張った事を昨日の事のように覚えております。銭太鼓を通して数多くの舞台、たくさんの方の経験を重ねていくうちに私の思いは安来節保存会が銭太鼓を正式に種目として導入すれば会員増、人材育成、技術向上に繋がって行くのにと心から銭太鼓の発展を願うようになっていきました。そして丁度その頃、保存会から優勝大会の昼休みタイムに銭太鼓の団体演技の依頼があり、平成十三年から十五年にかけて披露させていただきました。全国の会員の皆様には、改めて銭太鼓の魅力、また認識を深めていただけたのではないかと思います。そしてその後、指導部で銭太鼓導入の実行委員が招集され、私もその一員となり、数多くの議論を重ね、必要な資料を準備し、平成十六年銭太鼓の部が正式にスタートしたのです。初年度は、格付審査から始まり、全国から五〇〇名余りの受審者があり銭太鼓発展の第一歩を歩み始めたのです。銭太鼓導入は、全国の会員の皆様、また銭太鼓愛好者にとつて一筋の光を与えて下さった画期的な出来事であったと思えます。導入から十年後には、一三〇〇人位まで増加したと認識しております。導入から十七年が経ち、優勝大会では団体戦だけでなく、今は個人戦の種目も設けられ、銭太鼓の活性化にも繋がっています。

私にとって銭太鼓は、自分を奮い立たせるライバルであり、また初心者のように常に新たな気持ちにさせてくれる良きパートナーでした。銭太鼓を通して自分との闘いであることに気づかされ、そして力を抜いた演技で良いものが生まれることを体験して参りました。これからの銭太鼓も会員の皆様にとつて有意義で自分磨きに結びつくような存在、また老若男女、年齢問わず誰でも楽しめるような環境作り、体制作りを目指して行かなければならないと思っております。そしてその事が安来節保存会の発展に繋がって行くよう心から願っております。

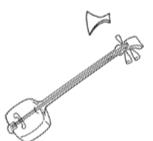
## 私と安来節



踊 准名人  
出雲 啓之助  
(大東支部)

この度、安来節保存会より踊准名人を頂き、誠にありがとうございます。これも偏に私をここまでにしていただいた三代目出雲愛之助師匠をはじめ、大東支部の皆様方、そして諸先生方のお陰です。心から感謝すると共にこれから身体が続く限り皆様へ恩返しをして行きたいと思えます。本当にありがとうございます。

私は、今年で安来節を始めて五十年の節目を迎えました。昭和四十六年に保存会に入会し、唄の審査を受け、四十八年には鼓を受けました。その後、唄、鼓が師範になり、踊りは昭和五十六年に審査を受けました。二級から始



まりましたが、母には「踊りだけはやめてくれ」と言われ、理由を聞くと「下品で汚い踊りだ」との事でした。私は、今の踊りはそんな事は無いと言

うも聞く耳持たずでした。七年間、踊りをやめていましたが、大東支部で踊りのグループが立ち上がり、佐々木偉市さんと二人で指導しながら私も審査を受けるようになりました。出雲プロ

ックの予選会では、各級、各段で皆さんが予選を通過するようになりました。予選会後の日曜日には、愛之助先生を講師に迎え、一日公民館を借り、九時から十六時頃まで稽古を行いました。まず、歩き方が違う、腰の高さが高い、腰の入れ方(使い方)、間の取り方、踊りの合わせ方、表情の作り方等、すべてが自己流でした。三味線の人は間の取り方が違い、歩きと合わないという事などがわかりました。これではダメだと思い、ひと月に一回、愛之助先生に来て頂き、夜の稽古が始まりました。この頃から優勝大会で大東

の踊りは、各級、各段で優勝や入賞が出来るようになりました。中でも極めつけは、師範で佐々木さんの踊りをはじめ、六人が優勝したことです。今、私が安来節保存会で指導部という立場にあるのも支部の踊りのメンバーと師範の中で競いあえたからだと思います。

出場するからには、誰もが「優勝する」ということを意識して稽古をし、大会に臨んでいました。優勝旗を持ち帰った夜に応援に行かれた方々との一杯は格別でした。

これからも保存会のために務め、皆様方に恩返しをして行きたいと思えます。どうぞこれからも御指導、御鞭撻を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

### 私と安来節



准名人  
小村 顯二  
(松江支部)

昭和五十五年(一九四〇年)に安来節保存会に入会し、四十一年になります。

この度、松江支部のご推薦によりまして、安来節保存会より鼓准名人位を頂きました。これも偏に原文男先生の御指導の下、諸先生、皆様方のご厚情とご支援の賜物と深く感謝しております。これからも、私自身に磨きをかけて勉強する事がたくさんありますが、この上は鼓准名人位の名に恥じぬよう一層精進し、安来節の伝承と普及振興、保存会の発展に微力ながら努力させていきたいと思います。

私が安来節を習い始めたきっかけは、前にもお話しましたが、会社の先輩の原文男先生が「小村君も安来節やらんか」と何気ない言葉をかけていただいたのがきっかけです。その時、私は三十三歳で、何にも考えず、ほんと軽い気持ちで習い始めました。ところが甘い考えでスタートしたので、稽古が進むにつれ難しくなり悪戦苦闘の日々、幾度となく壁にぶつかり、その繰り返しばかりで五、六年経った頃に「安来節は奥が深く難しいよ」と先輩の皆さんから聞き、本当に奥が深く難しいと痛感しました。その後、師範に昇格した頃から少しずつですが、面白さ等が分るようになり、その内、演芸にも誘っていただくようになり、楽しく面白くなりまりました。この間、原先生をはじめ皆様方が優しい中にも厳しく熱心なご指導や様々な経験等をたくさん教えていただいたお蔭で、こうして長い間安来節(絃、鼓、踊)を続ける事ができました。それと安来節を理解していただいた皆様、そして家族の支えがあったおかげでもあります。

昨年二月頃より新型コロナウイルス禍により安来節保存会の年間行事がすべて中止となり、本当に残念でした。三密を防止するため思うように練習も出来ず、皆様も不安な日々をお過ごしかと思えます。一日も早く新型コロナウイルス感染症が収束する事を願っております。このような状況の中ではありますが、皆様のご健康と益々のご活躍を心よりお祈り申し上げます。

### みんなに届けたい安来節



准名人  
安達 久美  
(本道場)

私の家は、父の代から料理・仕出し店で、幼少の頃から父のお手伝いをしていました。当時の結婚式は、自宅で執り行われており、料理を作りに行き、謡を披露して式が始まり三三五度の盃雄蝶雌蝶が執り行われ、盛大に宴会が始まると父が安来節を唄い、その姿を幾度も傍らで見ました。いつしか聞き覚え、安来節を口ずさんでいました。これが安来節との出会いでした。

数年後、町の婦人会に勧められ、参加したのが安来節の教室でした。三味線の音色に乗せて唄う事ができ、とても感動しました。唄える様になった時、突如案内されたのが、現在の家元四代目渡部お糸先生の教室でした。他にも三味線、鼓、どじょうすくい踊り、銭太鼓等、一生懸命頑張って習いました。

安来節全国優勝大会に携わるうちに、私は多くの方に安来節を広め届けたいという思いが極めて重要だと奮い立ち、実行する事に決めました。まずは、町民の皆様と福祉の皆様が安来節を聞い

ていただきたいの思いから「安来節と民謡」をテーマに公演を企画し、ポスターを作り、皆様に案内をした所、当日は超満員でとても感動し、これが安来節を届ける第一歩でした。「また安来節を聞かせてください」と来場者の方から温かいお言葉を掛けていただきました。敬老会の日には、百人の生徒さんと共に銭太鼓を披露することができ、感謝の気持ちで一杯でした。その後、神社、町内、公民館祭り、各施設への慰問、教室での稽古を重ねて安来節を伝えていきます。中でも安来一中の生徒さんの勉強会では、安来節の歴史を学んでいただいたうえ、唄えるまじりになり、喜んでいただきました。その後、一人一人からお手紙を頂き「これからは、もっと安来節を勉強したい」との力強い言葉を頂きました。

現在、教室の生徒の中には、三歳と五歳の頃から安来節を始めた孫もおります。親の手ほどき、その子がうけて、孫も唄うよ安来節

これからは若い世代に伝えて行く事が私の役割だと思っています。結びになりましたが、長年に亘り先生方をはじめ多くの皆様のご支援ご協力を承りまして厚く御礼申し上げます。新型コロナウイルスの影響を受け、行事等がほぼ中止の状況にありますが、一日でも早い終息を願うと共に安来節にとつて実り多く、皆様と逢える明るい年となります様お祈り申し上げます。

### 私と安来節



准名人  
古山 秀夫  
(湖陵支部)

令和二年春に発生した新型コロナウイルス感染症の収束も未だ見えない今年一月、湖陵支部から推薦を頂き、心技共未熟ながら安来節保存会より准名人位を拝受致しました。これも偏に先輩の先生方、また関係者皆様のご支援のおかげと感謝申し上げます。身に余る光栄と共に責任の重大さを感じているところでございます。

安来節との出会いは、記憶が定かでは有りませんが青年団時代に一時習ったのが始まりかと思えます。当時は、今以上にお宮の遷宮等催し事が有れば、安来節一座の来演が有り、聞きに行つた思い出も有ります。また、私も父が病弱な為、早くから町内の付き合いに参加しておりました。今の様にカラオケも普及しておらず、町内の酒席では手拍子で安来節等民謡を唄い、酔いが回ると手先の所作で勝ち負けを決める拳(出雲拳)がお決まり。その粹な前歌を知らない乍らも素唄を唄つておりました。そうした関係から町内の保存会員さんから誘われ、師匠の故郷藤恭一先生の教室に入会し、唄准名人故小川幸雄先生にご指導を頂きました。入会当時は、教室諸先輩の字余りの唄を聞きながら自分も早く歌えるようになれたらと思う日々だったように記憶しております。

昭和五十七年に唄の初審査を受け、昭和六十三年に師範に昇格、その後鼓として絃、踊りを習い、平成八年と十三年に師範に昇格させて頂きました。その間には諸先生方の熱意あるご指導を頂いたの言うまでもありません。そうした道程の中で支部移動講習会の折、講師の先生から「声が低くても師範者は多数いる」とのアドバイスを頂き、水調子に下げたこと、また唄師範

審査で「七曲り」の短冊を引き、たまたまテープで聞いたある先生の三節の「一曲り」部分のお糸節が心に残り、らしき「節」を入れて唄った事は今でも鮮明に覚えております。安来節の醍醐味は、音量豊かで艶やかな聴衆を圧倒する高音域の唄と、対照的に小節の効いた独特な節回しの低音域の唄の対比、また銭太鼓の鮮やかなバチ捌きと華やかさ、そして男踊りと女踊りの動と静、ユーモアな所作と対情緒豊かさの二踊りの妙味ではと自分なりに思っております。観て聴いて人々を和やかに魅了する安来節、その中に身を置く事に喜びを感じながら、微力ながら普及、発展に努力をさせて頂きます。今後共変わらぬご指導の程、よろしくお祈り申し上げます。

### 私と安来節との出会い、思い、出



加賀 勇造  
(関東支部)

オリンピックで盛り上がるはずの今年、地球規模の災いは、私達の生活を一変させました。緊急事態宣言下では人の集まりどころか自粛ムードで家に籠って誰にも会わず、二〇二〇年は違った意味で歴史的な年になりました。私の身近な出来事としては、日本民謡協会主催の全国大会出場に推挙していただきましたが、延々になったまま見通しもなく残念です。

私は、秋田県横手市出身で幼少時より郷土民謡に慣れ親しんできました。安来節との出会いは、馴染みのカラオケスナックの十周年記念行事に安来節保存会を招待したのが出会いになりました。軽快なリズム、踊りの仕草に魅了され、ビデオを譲り受け、何回も繰り返している内にだんだんとはまり込み

すぐ入門手続きをして衣装、道具を購入し、浅草雷門近くの稽古している教室を尋ね、先輩の踊りを観察し、話も聞きました。ビデオとは違い迫力を感じました。なぜ、東北生まれが山陰地方の芸に興味を持ったんだろうと、今でも不思議でなりません。

一年一回保存会主催の資格審査会がゴロゴロ会館にて開催され、当時九十名前後の会員が受審され、結果発表を兼ねて先生方との打ち上げでした。師範審査会は、東京を二十二時発の寝台特急サンライズ出雲に乗り、安来には九時頃着の長旅で、下車後すぐにタクシにて会場の安来節演芸館へ到着後、すぐに出場準備と慌ただしいスケジュールでした。全国大会、予選会時は、智頭支部の大久佐先生には寝泊りを一緒に唄の基本的姿勢、心構え、締めに至るまでご指導いただき感謝いたします。また、鳥取支部竹内先生にも地方含め何かとご指導いただき、誠にお世話になり感謝いたします。大東支部の三代目出雲愛之助先生には地方を含め厳しいご指導で現在に至っています。

保存会二〇〇周年記念事業で浅草・木馬亭公演の打ち上げの際に偶然にも真向いの席に当時資格審査長の中本先生が着席され、一杯飲みながら唄を披露していただき「唄は上手に歌おうとせず、その土地の国訛り、において、また唄の文句を熱くした唄い方が個性として現れ、聴く人の心を魅了する」と熱く語られた事が強く印象に残っています。また、審査時の評価を事細かく和紙に毛筆で記録された物を送っていただき、これは私の宝物として保存しています。

三年程前、シニアクラブ主催の新年会に三〇〇名前後の各町会の集まりの際の余興に出演依頼があり、素唄二本とどじょうすくい踊りを披露しました。物珍しさも加わり拍手喝采を受け、そこにいらした二名の方が私に近づき「実は、島根県出身で久しぶりに故郷の芸を見て懐かし感動した」と言われ、趣味として続けてきて良かったと思つた反面、怖さも感じさせられた出演となりました。



### 安来節との出会い



橋 優衣 (東北支部)

「どじょうすくい踊りを習えるんだって！ やってみたいら？」それが私と安来節の運命の出会いだ。当時大学生だった私にカルチャークラスの広告を上げ、誰よりも目を輝かせていたのは、母だった。しかし、当時の私は大学の勉強とアルバイト、手話によるボランティア活動に仙台すずめ踊りの活動など怒涛の日々を送っていた。今じゃないな。運命ならば、きつとまた絶妙のタイミングがやって来るだろう。そう信じ、安来節の世界への誘いは一旦お蔵入りとなった。それから十年。社会人になった私は、絶

望していた。職場と家の往復だけの退屈な日々。するとそこに、あの時と全く同じように目をキラキラさせ、広告を広げてくる母の姿があった。今だ！すぐさま教室に電話をかけ、翌週から入門することになった。いざ、お稽古が始まると、あれよあれよという間に道具が揃い、衣装が揃い、生き生きとした自分の姿があった。踊は楽しい。(もちろん銭太鼓も) もともと趣味で続けてきた表情を大切にすると手話や中腰でキレのある動きを重視する仙台すずめ踊りとも通ずる部分があり、今までやってきたことが繋がった！と思う瞬間であった。また、帰宅し、家族に披露すれば爆笑しながら涙を流している母やボランティア活動に参加させていたいた時は、安来節の音色に誘われて、別のお部屋からお客さんが集まってきたりして、大爆笑の末、拍手喝采を受けている先輩たちの姿に感動した。そして、何より人生経験豊富な先生や先輩方と一緒に過ごせるのは、安来節はもとより、人

生の勉強にもなっており、人間としても大きく成長させてくれる場所だ。私がひとたび踊れば信じられないほど皆さん褒めてくださり、単純な私は図に乗って、めきめきと上達しているに違いない。全国大会出場が決まれば、安来に行ける！とのこと、旅好きでミーハーな私は、安来に行くことを目標に！、さらには国内にとどまらず、海外へ進出し、世界中の人たちと安来節を通して交流できればと思いい日々お稽古に励んでいこうと思う。

最後にいつも優しく熱心に教えてくださる先生、先輩方、これからもご指導、ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

### 支部情報

#### 鳥取支部の活動



竹内 誠 (鳥取支部長)

鳥取支部のコロナ禍に於ける活動状況を紹介します。

例年は、毎年開催の支部発表会、また敬老会や納涼祭、介護施設の慰問、各種イベント等の出演に備えて、日々練習に励んで来ました。昨年は、コロナで活動が制限される中、所属する鳥取市文化団体協議会の小学校への出前講座(どじょうすくい踊りの指導)や加盟団体との交流のほか、鳥取市文化交流課の事業への協力等を行いました。

昨年八月、文化団体協議会を通じて、

市の文化交流課の事業「文化芸術入門講座」への参加募集があり、応募する事となりました。

あらゆる活動が出来なくなり、発表会も中止せざるを得ない状況の沈滞ムードを一掃し、映像収録に向けての練習が始まりました。時間と人数が制限され、会員全員参加にはなりませんでしたが、演目を「安来節」と

メラに向かって、緊張しながら十六分間の演奏を終えました。ケーブルテレビでの放映は、年末に終わりましたが、YouTubeの鳥取市公式動画チャンネル

「どじょうすくい」、「民謡メドレー(江差追分送り節・元唄貝殻節・ソーラン節)」、「きなんせ節」と決め、演奏する事にしました。心配にしている音響屋さんの協力も得て、パート毎に多数のマイクとモニタースピーカーをセットし、ローカルケーブルテレビ局のカ



「いいね！文化芸術入門 民謡」でアップされ、いつでもご覧いただけるようになりました。

安来節の、ひいては日本民謡の魅力の普及啓発発信に多少なりとも貢献出来たのではないかと喜んでおります。

本年度は、支部総会後の新年会も中止しました。早く新型コロナウイルス感染が収束し、いつもと変わらぬ活動が出来る日の来ることを願っております。



### 計報

並河健蔵さん(安来市 八十九歳)が令和二年十二月十四日逝去されました。安来節保存会会報の第八号より第六十一号までの十七年に亘り安来節や安来の町のことに関して多くのご寄稿をいただき、ご教授賜りました。

ここに謹んで哀悼の意を表し、ご冥福をお祈り申し上げます。

神戸支部長井村恵一さん(八十六歳)が令和二年十二月十三日逝去されました。井村さんは、今日まで安来節保存会に多大なご功績を残されました。

ここに謹んで哀悼の意を表し、ご冥福をお祈り申し上げます。

### 事務局からのお知らせ

#### 「東部地区師範研修会」日程変更について

令和3年10月24日に予定しておりました「東部地区師範研修会」は、令和3年10月10日に変更になりました。

感動を呼ぶ 音色と 響き 丹念な加工 調整 仕上げ

# (有)仁木三味線

製造・販売/修理 三味線・鼈甲撥・尺八・太鼓

〒240-0022 神奈川県横浜市保土ヶ谷区西久保町197-1  
TEL 045(713) 4319 FAX 045(741) 4796

HP <http://www.syamisen.com/>



### 出雲街道民謡交流会10周年記念出版

山陰の至宝

## 安 来 節

「民謡の王者であり続けるために」

1冊 2,000円 税、送料共  
ご注文: 渡部孝夫 090-2809-1233

「唄われて100年の魅力」基礎編 1,000円 在庫わずかです。  
「甦る安来節」士気を高める内容。1,800円

上達のヒントが満載。優勝大会が待ち遠しい!!

師範になるため、そしてなってから。

もっと安来節が好きになります。